

イムラン・カーンの逮捕は パキスタンの民主主義を狂わせる

人々の記憶に残る中でもっとも人気のあるリーダーが
国家NO1の敵となるとき、パキスタンに何が起きるのか？

Ejaz Akram (2022年8月23日)



<https://thecradle.co/Article/Analysis/14667>

著名な国防アナリストで元パキスタン軍人のハイダー・メフディは、4月9日のイムラン・カーン政権の転覆に関し陸軍大将のカマル・ジャベド・バジュワが米国当局との共謀に関与していたと強く主張している。

大衆やソーシャルメディアの人々の多くは同じ考えのようだが、パキスタンの主要メディアは、この国がここ数年で目撃した最大の政治スキャンダルについてほぼ沈黙を保っている。

クーデターと疑われる4月9日の事件におけるパキスタン軍の役割を批判した人の多くは一具体的な将校の名前を挙げていない場合でさえすでに国外に逃れた。逮捕された者もいるし、訴追された者もいる。

中でも特に重要で感情に絡む事件の一つに、パキスタン系アメリカ人の学者で、イムラン・カーンのメディアチームのメンバーで彼に近いシャバズ・ギル博士の事件がある。ギルは、ARYニュースネットワーク（その後すぐに閉鎖された主流チャンネル）の番組で、軍人は上官からの違法な命令に従うべきではないと主張し、国家に対する扇動罪で訴追された。

何人かの軍幹部はすべての軍人は上官の違法な命令に従わないという宣誓に服しているためギルの発言は犯罪を構成しないと説明しているが、ギルは8月9日に当局に逮捕され、病状が悪化して州立病院への移送を余儀なくされるまで連邦政府の拘束下にあったと伝えられている。

カーンは、2019年にもまったく同じ州立の医療施設にしてやられたことがあると述べている。同年、同病院は緊急治療のためとして（汚職の罪で収監中の）ナワズ・シャリフ元首相の緊急治療のための英国渡航を裁判所に認めさせたが、同首相は二度とパキスタンに戻ることはなかった。

今回、カーンは自らギルの状態を確認したいと訴えたが、病院への入室を拒否された。カーンの政党パキスタン正義運動（Pakistan Tehreek-e-Insaf）の指導者によると、ギルは逮捕状なしに拘束され、拷問や性的暴行を受けたという。

パキスタンの刑事訴訟法（CrCP）では、勾留期間の上限は14日であるが（ギルにとっては今日8月23日にあたる）「テロ特殊事件」の場合は最長90日まで勾留を延長することができる。

国際法研究協会（the Research Society of International Law）は、パキスタンに関する報告書の中で、「CrPCとATA（テロ防止法）の勾留期間の格差は、パキスタンの反テロ法廷が非常に多数の余剰事件を抱える要因の一つとなっている。ATAによる勾留期間の延長は、警察に捜査を完了するための時間的余裕を与える（ため、ATAが選択されがちである）からである」と指摘している。

次はイムラン・カーン？

そこへ、今度はイムラン・カーン自身に対して「テロ」容疑の逮捕状が出されたというニュースである。

論議的となっているカーンの（反テロ法7条に基づく）訴追が行われたのは、土曜日の（ギル支援の）大規模集会の後である。カーンは集会でのスピーチの中で、ギルの拷問に関与した警察と司法当局に対し訴訟を起こすことを宣言した。「われわれはお前たちを容赦しない…われわれはお前たちを訴える」と彼は脅した。

カーンの訴追は非常に迂闊な行為である。なにしろ、訴追する側である政府の内閣の圧倒的多数は汚職から殺人までの幅広い罪で起訴された名だたる犯罪者、累犯者で占められているのだから。

しかし、政府高官はカーンに対する「テロ」容疑を擁護し、彼が「警察や司法の間に恐怖を広め」彼らの仕事を妨げていると主張した。

なお、事項で述べるように、パキスタンの反テロ法は、定義の広範さ、措置の強力さ、当局に与えられる諸権限の危険性の高さにおいて、国内の法律家、海外の人権団体の双方から非難を浴びている。

パキスタン政府によるテロ法の濫用

国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）によれば、反テロ法の「基本的な欠陥」の1つは、「規定による”テロ”の定義が曖昧で過度に広範なことにある。そのために過激派や危険なテロ組織と何の関係もない犯罪を反テロ法で裁くことが可能になっている。」

実際、パキスタンでこの法律に基づいてテロ関連犯罪で有罪判決を受けた者の80%までが、“テロ”とは全く関係のない事項で訴追されている。

OHCHRはさらに「政治・経済からの影響が反テロ法による訴追と通常の刑事司法制度による訴追を分ける主要な決定因となっている」というパキスタンの弁護士たちの見解を引く。

高等裁判所の上級顧問弁護士Imran Asmat Chaudhry弁護士の発言が報告書に掲載されている。

「私自身、反テロ裁判所に回された事件を11件ほど担当しましたが、すべての事件において、その背後にあったのは、個人的な敵意、政治的対立、あるいは警察自身が持つ何らかの悪意のいずれかでした。犯罪それ自体はテロと全く関係がなくても、反テロ法で扱うことができってしまうのです。」

国連のヒューマンライツグループは「（反テロ法の）定義の広範さは、しばしば、与党が反対派に政治的犠牲を強いる道具としてこれを用いることを許してきた」と結論している。

メディアの弾圧

カーンに逮捕状が出た後、パキスタンのいくつかのテレビ局が閉鎖され、著名なジャーナリストであるジャミール・ファルーキが逮捕されて非公表の場所に移送された。

アナリストによれば、このレベルの腐敗政治とマッカーシズムはパキスタンでは前例がないという。

活動家はソーシャルメディアでパキスタンの主要都市に軍が配備され厳戒態勢が敷かれているとを報告している。政府はカーンの主要テレビ局への出演を禁止し、イスラマバード警察は今後首都でカーンの警備を行わないと発表した。

放送を打ち切られたBOLテレビのもう一人の著名なジャーナリスト、サミ・イブラヒムは、この48時間が決定的に重要だと述べている。カーンの逮捕に対する賛成あるいは反対の運動が起こるかもしれないからだ。間もなくパキスタン国内のソーシャルメディアに対する制限、強制捜査、弾圧などに関する重要な決定が下される可能性も高いという。

国家当局と一般市民の対立という危機的な状況の中、ほとんどの人は果たして政府にパキスタンの最近の歴史上最も人気のあるリーダーを逮捕する力があるのか、疑問を持っている。

カーンの政党パキスタン正義運動は現在パキスタン国内の複数の州で政権を担っている。これと対照的に、外国の傀儡と見られている連邦政府与党の勢力圏は首都に限定されており、強力な言論統制策にもかかわらず、正統性をめぐる重大な危機に瀕している。

政権内部の亀裂

現パキスタン政府はあり得ない状況に置かれている。国民からの正当な付託を確立することが必要だが早期に選挙を行うことはできない。あらゆる指標がカーンの圧勝を示唆しているからだ。しかしこの付託がなければ統治を行うことそれ自体が政府にとってのチャレンジとなる。とりわけ大規模な街頭での抗議行動が相次ぎソーシャルメディアで市民が政府を物笑いの種にしているこの状況では。

さらに、シャバズ・シャリフ政権に内部にも対立がある。亀裂は次第に目につくようになり、拡大を続けている。

8月21日、カラチの補欠選挙で、カーンのパキスタン正義運動は対立する13党の同盟に決定的な差を付けて勝利した。イムラン・カーンは実質的にはすでに選挙で民衆の支持を勝ち取ったといえる。大差での勝利が起きたカラチは、対立する勢力のホームグラウンドなのだ。

与党同盟のメンバーの多くは、訴追を逃れるため、パキスタン正義運動が州政府を形成した州から逃げ出している。連邦政府の閣僚にもすでに海外に逃亡した者がいる。

著名なパキスタン人アナリスト、ナシル・アフマドによれば「バジュワ将軍と上級将官たちは、パキスタン国民、さらには彼ら自身が指揮する部隊が、どれほど激しく彼らを嫌っているかを全く理解していない。将軍たちが不安を感じれば感じるほど、彼らは自分の意見に固執し、固執すればするほど、彼らが忠誠を誓って防衛する国を決定的な危機に近づけることになる。」

一方で、政府がイムラン・カーンの逮捕、最悪の可能性として暗殺に成功した場合、カーンと同じだけの力量と人気でパキスタンを安定に導く人材は残っていないのではないかと懸念する者もいる。大衆の運動には国家を建設的な政治目標に向かわせることのできる有能で正統性のあるリーダーが必要である。それなしでは大勢の人々はただ自らの上に崩れ落ちてしまうかもしれない。

アメリカが支援したとされる4月9日のイムラン・カーン失脚以来、パキスタンの政治に退屈な瞬間はない。まるで一夜にしてこの国に新しい頭部が生えてきたようなものである。

従来は公平だった軍のエリートが、パキスタンの大衆に背を向けて人々の軽蔑の対象になるとは誰も想像しなかっただろう。インドが侵攻レベルに増強した兵力を占領したカシミール地方に集めているときに、軍の上層部がニューデリーに擦り寄るとは誰も思わなかっただろう。

ラナ・サヌラー内相は8月22日、アフガニスタンを「敵国」と発言し、タリバンに対するアメリカ政府の最新の戦争でパキスタンが今度もアメリカに追従するサインを送った。このような決定は、パキスタン国民の意思、利益、そしてその決意に真っ向から反するものである。

近い将来、ますます不人気になり大胆になるパキスタンのエリートと多数派人民の決定的対決が起こることは避けられないだろう。